

ポリオ根絶活動で得るべきことは、「人の痛みがわかり、寄り添える心を持つ人間になること」です。

国際ロータリー第 2580 地区

2024-25 年度ガバナー

石川 彌八郎

あまりよくないことですが、ろくに書類も読まずに、ハンコを押したり、サインをしたりすることがあります。いわゆる「メクラ判」です。「メクラ」と言う言葉は、不適切な言葉なので、「メクラ判」を改める言葉は何か？を考えました。「メクラ」は差別用語とされているので、「視覚障害者」と改めるべきです。そうすると、「メクラ判」は「視覚障害者の押印行為」となるのかと言うと、それはそれで、ますます問題になります。視覚障害者は理解もせず、考えもせず判断をしている、という概念がその裏に現れるからです。ここで、物事の本質をとらえることの重要性を感じました。「メクラ」を「視覚障害者」に、つまり、言葉を入れ替えただけで物事の本質が解決すると思ったら大間違いであるということです。

表現を変えただけでは本質は変わりません。表現とは行為です。つまり行為を変えただけでは、本質は変わらない、と言うことです。この思考の延長線でたどり着いたことは「本質を理解せずに行うだけをしていることの虚しさ」です。簡単にいえば「ただやっているだけ、あるいは、やらされているだけ」の虚しさです。



さて、ポリオの話です。ポリオの根絶は重要です。しかし、ポリオ根絶活動の本質は何か。それを理解せずに、あるいは理解しようともせずに赤いシャツを着て動いているだけのロータリアンは、「メクラロータリアン」と言われても仕方がないと言うことです。実は、そういう僕も 11 月に沖縄で開催した、財団セミナーを経験するまでは「メクラロータリアン」でした。メクラという言葉は良くないので、「本質を理解せずに、あるいは理解しようともせずに、ただやっているだけのロータリアン」と書き改めます。「本当に根絶できるの?」「一体それまで、



12月12日「2024-25 ロータリー財団地域セミナー」にてポリオプラスへのDDF20%寄付達成表彰を当地区を代表して受けました。(写真左は、公益財団法人ロータリー日本財団三木 明副理事長)

いくらかかるの?」「ほかにやることがあるんじゃない?」「何でポリオなの?」そんな感じです。

しかし、11月の財団セミナーで僕は感じました。ポリオ根絶活動の本質を。本気で打ち込めば、得るものは必ずあります。以下、僕が感じたポリオ根絶活動の本質を書きます。ポリオ根絶活動は、根絶が目的ではなく、それは手段であったことに気が付いたのです。ではその目的とはなにか。それは、その活動によって、我々が人間として生きるために重要なことを学ぶこと、人間として成長することなのです。

高校野球とポリオ根絶活動を重ね合わせて考えてみましょう。ポリオ根絶は高校野球で言えば甲子園優勝です。目指す頂点です。では、優勝できなかった高校球児は何も得なかったのでしょうか。そんなことはないでしょう。そのクラブ活動の中で、多くのものを得たはず。関係プレー、チームワークの重要性、フェアプレーの精神、先輩後輩の関係、道具を大切に器具愛護の精神、いろいろ学ぶことはあったでしょ



う。優勝できなかったからと言って、決して空虚な高校生活ではなかったはずです。打ち込めば打ち込んだだけ、たとえ優勝できなくとも、得るものはあったのです。

視点を変えれば、練習に練習を重ね、その甲斐あって優勝できたとしても、それで人生万々歳ではありませんよね。だってまだ、17歳、18歳、これからですよ、人生は。ポリオも同じです。根絶を勝ち取ったからと言って、「良かった、良かった」、ではないのです。ということは、成就できようができまいが、一途になること、真剣に取り組むことで得られること、むしろそのほうが重要だということに気が付いたのです。

では、ポリオ根絶活動で得られるもの、得るべきものは何か。僕なりの結論は、ポリオ根絶活動で得るべきことは、「人の痛みがわかる人間になること」です。

11月の財団セミナーで、ポリオ罹患者の女性の話を聞きました。彼女は七十代か八十代なので、数十年後には他界しているでしょう。我々はポリオ根絶を目指しています。努力の甲斐があってポリオが根絶され、ポリオ罹患者が全員他界したらどうなるか。我々は、ポリオで苦しんだ方々の経験を直接本人から聞くことは出来なくなります。それはそれでよいことですが、もう少し視野を広げると、たとえポリオの根絶ができたとしても、ポリオ以外にその他の理由で、先天あるいは後天的に手足が不自由になり、車椅子で生活している人は、沢山います。ポリオはゼロにできるかもしれませんが、そのような障害を持つ人をゼロにすることは不可能です。と言うことは、ポリオがゼロになれば、「ハイそれでおしまい、めでたし、めでたし」ではないのです。ポリオ以外の理由で、ポリオと同様の

苦しみを得ている人は永遠にゼロにならないということ、ポリオ活動で心に刻むことが重要なのです。どんなときにも、不自由な人は存在する。その時必要なのは、それらの人の痛みがわかり、寄り添える心を持つ人になることなのです。

11月の財団セミナーは沖縄で開催されました。このようなことを考えたのは、ちょうど沖縄にいたからかもしれません。また、被団協(日本原水爆被害者団体協議会)がノーベル平和賞を受賞したことの影響もあります。戦後80年、被爆体験者の年齢は85歳程度だそうです。ポリオ罹患者同様、いずれ、被爆者の体験を直接本人から聞くことは出来なくなります。体験者がいなくなったらそれで解決ではありません。むしろその後が重要です。過去を学び、本質をとらえ、行動する。それがなかったら、むなしいポリオ根絶活動と言わざるを得ないのです。高校野球を例にとって話を進めましたが、別に野球でなくてもいいのです。蹴球でも籠球でも排球でも、運動部でなくてもなんでもよいのです。とにかく、一途に打ち込むことが大切なのです。因みに僕は山岳部でした。ロッククライミングもしました。落ちて宙吊りになったこともありました。あれから40年、今や、スポーツクライミングとしてオリンピックの種目になりましたが、種目であろうがなかろうが、何を選ぶかは、それは各ロータリアンが自分で考えて決めればよいことです。野球部ではないからと言って、山岳部員が責められる筋合いではないのと同じです。学校の方針が何であろうと、校長が何と言おうと、決めるのは本人です。本人が決めればいいのです。僕は、学校の方針が気に入らず、別の学校に転校した経験もあります。15歳の時だったかな。2580地区の会長の皆さん。クラブの会員各位にお伝えください。ご自身で考えて、好きな奉仕活動を、自由に、懸命に行ってくださいと。

当地区全クラブの会長プロフィールを順次掲載しています。

—「隔たりを取り除き“ご縁”を大切に」なさってください。—



橋本 豊之

所属：東江戸川

1960年生まれの64歳、創業97年になる伸銅品問屋の三代目です。「伸銅品」って何？と聞かれることが多いのですが、銅やそれらの合金素材のことです。昔は街中に赤い字で「銅」と掲げた問屋があったのですが、今は23区内でも50社程度と絶滅危惧種になってきました。しかし伸銅品は家電や自動車、建築金物など私たちの生活に欠かせないものの部品となります。これからも誇りをもってこの仕事を続けていきたいと思えます。ロータリークラブに入会してから時がたち、当クラブでも中堅といわれる年齢になってきました。まだまだ勉強不足ですが皆様から刺激をいただきつつこれからも楽しく活動をしていきたいと思えます。



金野 眞一

所属：東京東大和

私は岩手県出身です。未だ地方訛が抜けません、職業は建設業を主に不動産業にも進出しております。会社は7年前に、長男に事業継承を済ませ、現在は会長職として長男の邪魔にならない程度に籍を置いております。趣味は、健康を第一にとゴルフ、家庭菜園に精を出しております。ロータリークラブ入会は1994年10月で、入会后30年、皆出席させて頂いておりますが特に意識している訳ではなく、例会で皆様にお会いすることの楽しさからの成果だと思えます。これまでクラブ幹事を2回、会長を今回で3回目として引き受けております。本年は特に会員増強委員長を中心に全会員一丸となり、5名純増を目指して取り組んでおります。現在3名が入会しております。会員増強することにより、例会や多岐にわたる奉仕活動にかかわっていけると確信しております。【ロータリーの目的】奨励の第一に「知り合いを広めることによって奉仕の機会とする」とあります。意味深い奨励文であります。現在私79歳、幹事も79歳、揃って元気であります。これまでに素晴らしい方々と出会う機会をいただいております。30年の貴重な在籍期間に感謝しております。



小林 康徳

所属：東京向島

2014年にロータリークラブに入会して、最初の4年間くらいは、ただ毎週ホテルで昼食を食べに行くだけで何が楽しいのか分からず、退会する予定でしたが、他地区の先輩から、やめる前にロータリアンじゃないと出来ない事ややってから辞めればと、インドでのポリオワクチン投与NIDに誘って頂きました。世界各国のロータリアンがインドに集まり、同じ想いでワクチン投与活動をする姿に、とてつもなく感動致しました。そして、始めてロータリーは国際組織なのだと思致しました。退会するつもりでしたのに、今では毎年パキスタンポリオワクチン投与活動に参加して現地に行かないと見えない色々問題に、我々に何が出来るのか？模索している毎日です。



渡邊 昌裕

所属：東京荒川

私は、大学卒業後9年間サラリーマンをした後、司法試験の受験制度が変わったタイミングで退職し、大学院生活を経て司法試験に合格し、現在は弁護士になり16年程になりました。ロータリー歴は10年程です。50歳を超え、人生にやり残しがないようにしたいと考えるようになり、これまでの人生で興味を持ったものの未着手だったもの（気球に乗る、ゲテモノを食べ尽くす、カヤックをする、現存天守巡り等）にチャレンジしています。ロータリークラブでも、日常では経験できないような刺激を頂くことが多く、楽しく過ごさせて頂いております。



入江 誠一

所属：東京福生

原状回復工事、内外装のリフォームを中心とした総合建設業、新車・中古車・ヴィンテージカー販売、飲食店と移・食・住の会社を経営して20周年を迎えます。20代から地域の奉仕団体に所属し活動をしてきたことから、休みも不定期で時間にも限りがあり趣味というと定期的に家族で大好きな沖縄にリフレッシュに行くことです。私にとってのロータリークラブは、地域社会から必要とされる組織である為に内外共に奉仕の理想を、実現できるかにあると思っております。入会して8年目で会長として今年度「希望のもてる平和な未来へロータリーと共に！」を、道標にして、その礎と実現を地域社会へ日本へ世界へと発信できるクラブへとメンバーと共に拓いて参りたいと決意しております。



仁平 範昭

所属：東京小石川

私が尊敬する方はクラブでお世話になった原英達さんです。2017年に入会した当初に親睦活動のお手伝いをさせていただいたことをきっかけに、原さんがクラブの会長の時には幹事も努めさせていただきました。ご自身の力で事業も大成功され、クラブでは常に気さくで笑顔を絶やさずに周りを明るくしてくれるとても大きな存在でした。ゴルフでは負けず嫌いなどところもあり、スコアが少しでも上回ると子供のようにうれしそうにされていました。親睦会の席では、自分の事よりも常に周りのことを考えていて、皆さんが楽しそうに過ごしている姿を見ながら温かな表情で見守ってくれたことを覚えております。原さん、本当にお世話になりました。これからも会員の皆様と共に奉仕にも親睦にも全力投球で、明るく元気なクラブ目指してがんばっていきます。



金谷 克也

所属：東京城北

東京城北ロータリークラブは今年度56周年を迎える格式と伝統を大切にクラブです。幅広い世代の会員が在籍しており、先輩会員の面倒見が良く、後輩会員も楽しくのびのびと活動しております。今年度のクラブターゲットは、「皆で創ろうクラブの魅力」です。「創る」には新しくはじめるの意味合いもあり、伝統を重んじながらも様々な変化の中で新たな親睦・奉仕活動を創り出す、そんな年度にして参りたいと思います。その為には各会員が持っている魅力を最大限に引き出す必要があります。いろんな親睦の機会を増やし、「活気」あるクラブを目指して参りたいと思います。私の仕事は電気設備工事業です。専門分野の交流はこれまで数多くありましたが、5年前にロータリーに巡り合えたことで他産業の多くの方とも触れ合う機会を頂き、自身の成長の糧となっております。ゴルフが下手な私ですが誘って頂く機会も増え、今では大事な趣味の一つとなりました。例会もゴルフもお酒の席も全て出会いの機会と捉え、ロータリアンを満喫して参ります！



吉田 和敏

所属：東京足立

生まれも、育ちも足立区千住です。2008年に入会致しました。「出逢い・感謝・ボクシングのおかげで」ロータリークラブを通してご縁をいただきこのテーマで卓話をしています。その後もフェイスブックで繋がり、日本各地に参上しています。2580地区、卓話者リストをご高覧いただけますと幸いです。【家族】妻、長女、長男、次女の5人家族です。【趣味】①大学から始めたボクシングで関東大学トーナメントチャンピオン2連覇。現在、プロボクシングのレフェリーも務めています。②家族みんな、劇団四季のミュージカル観劇が大好きです。一緒に歩く姿はまるで、かるがも。【嬉しかったこと】2024年5月6日東京ドームで34年振りにボクシングの試合が開催されました。43,000人の大観衆の中、レフェリーとしてリングに立ったことです。＜東京足立ロータリークラブは、もうすぐ創立50周年を迎えます。今後とも、どうぞよろしくお願い致します＞



若林 俊幸

所属：東京東久留米

仕事：株式会社船井財産コンサルタンツ（現青山財産ネットワークス）を2005年退社後有限会社コスモプランニング設立、現在に至る 趣味：ゴルフ 2011年ホールインワンを達成（武蔵松山カントリークラブ 156ヤード）2012年多摩カップ優勝 私にとってのロータリーとは？

私のロータリークラブ入会は、2015年5月19日です。3年目に親睦委員長、4年目に社会奉仕委員長その後、青少年奉仕委員長、地区では、国際奉仕委員会委員、RLI委員会委員を務め、多くの経験をさせていただきました。今年度55代会長のテーマは「伝統をつなぎ新しい風を吹かそう」その為のスローガンは、Challenge to Change 変化への挑戦を掲げ創立55周年の節目の年を熱い思いで努力する所存です。

第 2580 地区クラブ数・会員数

2024 年 12 月 31 日時点 クラブ数 73RC
 正会員数 3,035 名 (内女性 331 名・10,91%)
 12 月の入会者数 9 名 (内女性 2 名)
 12 月の退会者数 52 名 (内女性 8 名)
 本年度増減数 38 名

ご厚意に対し、深く感謝申し上げます

ロータリー財団・メジャードナー

MD レベル 3 清水 卓治 (故人) 【東京本郷】
 鈴木 康友 【那覇】

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

7 回 今西 敦之 【石垣】
 5 回 新村 敏明 【東京紀尾井町】
 牛島 聡 【東京お茶の水】
 4 回 星野 哲男 【東京武蔵野】
 3 回 松村 敏夫 【東京練馬西】
 2 回 江藤 昭子 【東京紀尾井町】
 小林 康和 【東京紀尾井町】
 金丸 精孝 【東京紀尾井町】
 1 回 道端 慶二郎 【東京紀尾井町】
 二瓶 直樹 【東京武蔵野】
 舟木 公一郎 【東京武蔵野】
 平野 大志 【東京武蔵野】
 平野 大志 【東京武蔵野】
 田中 秀篤 【東京武蔵野】
 上原 晃子 【石垣】
 新 賢次 【石垣】
 小林 昌道 【石垣】
 宮良 榮子 【石垣】
 宮城 隆 【石垣】
 上勢 頭保 【石垣】
 金城 力 【石垣】
 上原 秀政 【石垣】
 米盛 博和 【石垣】

ポール・ハリス・フェロー

3 回 松村 敏夫 【東京練馬西】
 2 回 鈴木 義一 【東京練馬西】
 1 回 宇田川 耀平 【東京紀尾井町】
 高橋 裕樹 【東京紀尾井町】
 佐々木 裕子 【東京紀尾井町】
 林 裕人 【東京紀尾井町】
 井上 麻矢 【東京紀尾井町】
 大浜 一郎 【石垣】
 宮良 薫 【石垣】
 松原 栄松 【石垣】
 黒島 剛 【石垣】
 大城 文博 【石垣】
 佐久本 達 【石垣】
 森田 安高 【石垣】
 宮良 幸男 【石垣】
 宮城 早人 【石垣】

ご厚意に対し、深く感謝申し上げます

赤嶺 真也 【那覇南】

ベネファクター

辻 和彦 【東京新宿】

米山功労者・メジャードナー

30 清水 卓治 (故人) 【東京本郷】

ポール・ハリス・ソサエティ

前田 信吾 【東京新都心】

2024 年 12 月 27 日現在

謹んで哀悼の意を表します

東京本郷 RC

清水 卓治 (しみず たくじ) 会員

逝去日 2024 年 12 月 13 日 享年 90

入会日 1992 年 2 月 1 日

(株)シミズオクト 代表取締役会長

米山功労者 (MD24)、米山功労法人

マルチプル・ポール・ハリスフェロー (MD3)

ベネファクター

東京臨海 RC

須藤 宗之助 (すどう そうのすけ) 会員

逝去日 2024 年 12 月 16 日 享年 97

入会日 1994 年 8 月 8 日

株式会社須藤花店 代表取締役

ポール・ハリスフェロー、ベネファクター

米山功労者、バギオ基金特別功労者

東京武蔵野中央 RC

井野 武 (いの たけし) 会員

逝去日 2024 年 12 月 18 日 享年 92

入会日 1983 年 12 月 1 日

井野建設 (有) 取締役

ベネファクター、マルチプル・ポール・ハリスフェロー (5)

米山功労者

東京神田 RC

廣瀬 元夫 (ひろせ もとお) 会員

逝去日 2024 年 12 月 30 日 享年 93

入会日 1964 年 11 月 19 日

東京燃料林産株式会社 名誉会長・廣瀬ビルディング

株式会社 会長・神田明神 名誉総代

マルチプル・ポール・ハリスフェロー

ベネファクター、米山功労者、メジャードナー